

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター

宮崎県健康増進課

宮崎県衛生環境研究所

■ 宮崎県第15週の発生動向

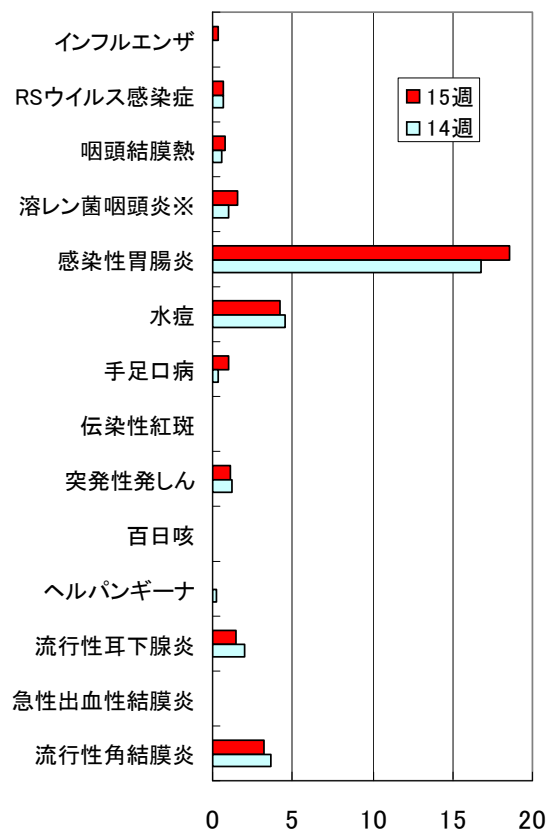
定点医療機関からの報告総数は 1,090 人（定点あたり 32.7）で、前週比 105%と増加した。

前週に比べ増加した主な疾患は感染性胃腸炎と手足口病であった。

感染性胃腸炎の報告数は 667 人（18.5）で前週比 111%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（15.1）の約 1.2 倍と多い。中央（43.0）、小林（32.3）、延岡（27.3）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 3 歳以下で全体の約 6 割を占めた。

手足口病の報告数は 35 人（1.0）で前週比 292%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（0.6）の約 1.6 倍と多い。小林（4.0）、高鍋（2.0）保健所からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 2 歳で全体の約 7 割を占めた。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年齢分布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
感染性胃腸炎	20	18.5	中央(43.0)、小林(32.3)、 延岡(27.3)	3歳以下で全体の6割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 3 例が宮崎市、延岡、日南 (各 1 例) 保健所から報告された。
《宮崎市保健所》・30 歳代の女性で肺結核。
《延岡保健所》・70 歳代の男性で肺結核。咳、痰、発熱がみられた。
《日南保健所》・70 歳代の男性で疑似症患者。咳、痰、発熱、胸痛がみられた。
- 3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 1 例が宮崎市保健所から報告された。60 歳代の女性で無症状病原体保有者。原因菌の血清型は 091 (VT1 産生)。
- 4 類感染症 : 報告なし。
- 5 類感染症 : ウイルス性肝炎 (B 型) 1 例が宮崎市保健所から報告された。30 歳代の男性で全身倦怠感、褐色尿、肝機能異常、黄疸がみられた。IGM HBC 抗体の検出。

■ 全国第 14 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 14.9 で、前週比 104% とほぼ横ばいであった。今週増加した主な疾患はヘルパンギーナと手足口病で、減少した主な疾患はインフルエンザと RS ウイルス感染症であった。

ヘルパンギーナの報告数は 302 人 (0.1) で、前週比 167% と増加した。例年同時期の約 1.7 倍である。島根県 (0.70)、熊本県 (0.52)、佐賀県 (0.43) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 2 歳までが全体の約 6 割を占めた。

手足口病の報告数は 1,297 人 (0.43) で、前週比 116% と増加した。例年同時期の約 3 倍である。福井県 (2.5)、愛媛県 (2.4)、広島県 (2.2) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 3 歳で全体の約 7 割を占めた。

□ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 245 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 3 例、腸管出血性大腸菌感染症 21 例、腸チフス 1 例、パラチフス 1 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 1 例、A 型肝炎 16 例、デング熱 1 例、日本紅斑熱 1 例、ブルセラ症 1 例、マラリア 1 例、レジオネラ症 6 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 6 例、ウイルス性肝炎 1 例、急性脳炎 2 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 12 例、ジアルジア症 1 例、梅毒 7 例、破傷風 2 例、風疹 1 例、麻疹 10 例

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第15週(04月12日~04月18日)

疾病名		第14週	第15週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	7	18		2			1				15
	定点あたり	0.12	0.31	0.00	0.20	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	7.50
RSウイルス 感染症	報告数	23	25	1	4	7	3		10			
	定点あたり	0.64	0.69	0.10	0.67	1.75	1.00	0.00	2.50	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	20	28	2	9	4	7		4		2	
	定点あたり	0.56	0.78	0.20	1.50	1.00	2.33	0.00	1.00	0.00	0.50	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	36	54	15	2	19	5	7	3		2	1
	定点あたり	1.00	1.50	1.50	0.33	4.75	1.67	2.33	0.75	0.00	0.50	1.00
感染性胃腸炎	報告数	603	667	157	90	109	39	97	52	9	71	43
	定点あたり	16.75	18.53	15.70	15.00	27.25	13.00	32.33	13.00	9.00	17.75	43.00
水痘	報告数	165	150	43	28	25	13	8	8	4	19	2
	定点あたり	4.58	4.17	4.30	4.67	6.25	4.33	2.67	2.00	4.00	4.75	2.00
手足口病	報告数	12	35	13				12	8		1	1
	定点あたり	0.33	0.97	1.30	0.00	0.00	0.00	4.00	2.00	0.00	0.25	1.00
伝染性紅斑	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	42	39	11	6	3	6	1	8		4	
	定点あたり	1.17	1.08	1.10	1.00	0.75	2.00	0.33	2.00	0.00	1.00	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	8	4	1		1			2			
	定点あたり	0.22	0.11	0.10	0.00	0.25	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	73	51	1	6	17	3	4	2		18	
	定点あたり	2.03	1.42	0.10	1.00	4.25	1.00	1.33	0.50	0.00	4.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	22	19	15	4							
	定点あたり	3.67	3.17	5.00	2.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週~15週)

2類感染症	結核	46例(3)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	8例(1)			
4類感染症	A型肝炎	1例	つつが虫病	1例	レジオネラ症
	ウイルス性肝炎	6例(1)	急性脳炎	4例	後天性免疫不全症候群
5類感染症	梅毒	3例	破傷風	2例	麻しん

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

手足口病と嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）に注意しましょう。（4月12日～4月18日）

手足口病の報告が増えています。この病気はウイルスに感染しておこります。夏に流行し、例年今の時期から感染者が増加します。主に2歳以下の子どもたちが多く感染します。

手のひらや、足の裏、口の中、おしりなどにあずき状の白っぽい水ぶくれができるのでこのような名前がついています。口の中の水ぶくれは痛みがあり食欲がなくなることが多いのですが、体にできた水ぶくれはかゆみや痛みがなく、しばらくすると破れることなく乾燥し消えていきます。熱が出ることもありますが、それほど高くはなりません。まれに髄膜炎や脳炎などの重い合併症のおそれがありますので、高熱が出たときにはすぐに医療機関を受診しましょう。

嘔吐下痢症は国富町、小林市、延岡市周辺からの報告が多く、警報レベルを超えています。3歳以下の子ども達が多く感染しています。

この病気はウイルスや細菌などに感染することによっておこります。二次感染を予防するためには、石けんによる手洗いが重要です。普段から調理の前や食事の前、トイレの後は石けんで手を洗いましょう。また、便や嘔吐物を処理するときには「使い捨ての手袋を着用し、使い捨ての布やペーパータオル等ですぐに拭き取る」、「乾燥させない」、「消毒する」の3原則をまもりましょう。